

地域資源利用学特論 I (2 単位)

担当者氏名 中村好男 三原真智人 中村貴彦 藤川智紀

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

河川流域内での地域資源の有効利用と資源利用調整工学のあり方ならびに農村環境について習得する。併せて、農業生産域における土壌保全対策と水環境保全対策を習得する。講義を通じて農業農村の今日的役割について具体的事例を取り上げて検討し、多面的機能評価方法を身に付けることを学習・教育の到達目標とする。この科目は、必要に応じてバイリンガル (日本語と英語) で実施する。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

土地及び水資源利用	資源利用調整	地域環境保全	土壌保全
農村生態系	固液分離	バイオマス利活用	環境影響評価

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	地域資源の賦存形態	世界と日本の水資源特性を理解する。	毎回の授業において使用したテキストや配付資料の復習と次回の授業の内容の予習を 2 時間程度行っておくこと。
2	水資源の循環と利用	流域の水循環の形成と利用特性を理解する。	
3	地域資源利用調整手法 (1)	地域資源利用調整工学の役割を理解する。	
4	地域資源利用調整手法 (2)	地域資源利用調整工学の役割を理解する。	
5	農業用水の多面的機能 (1)	河川・ため池利用と地域環境について理解する。	
6	農業用水の多面的機能 (2)	農業用水の地域用水機能を理解する。	
7	再生可能エネルギー開発	農業用水の小水力発電利用方式を理解する。	
8	地域資源と農村環境 (1)	農村生態系とその保全について理解する。	
9	地域資源と農村環境 (2)	固液分離と水環境の保全について理解する。	
10	地域資源と農村環境 (3)	土壌からの未利用資源の回収について理解する。	
11	バイオマスの利活用 (1)	廃棄物系バイオマスの農業利用を理解する。	
12	バイオマスの利活用 (2)	未利用バイオマスの農業利用を理解する。	
13	バイオマスの利活用 (3)	バイオマス利用の環境影響評価について学ぶ。	
14	土壌保全と水環境保全	土壌保全と水環境保全対策の理解を深める。	
15	総括	地域資源利用のあり方を総括する	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

授業初めに担当教員から指示がある。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

授業初めに担当教員から指示がある。

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

授業中に課すレポートの内容 (70 点) とディスカッションによる理解度 (30 点) をもとに評価する。

◆オフィスアワー

授業日の 18 時～19 時に授業担当者の研究室で質問等を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

授業は 4 名で分担して行うが、テーマごとに授業担当者が配付する資料以外に地域資源利用に関して自ら課題を見出し授業に望むこと。